

UNDERSTENSHOJDEN スウェーデン

1998年視察

ストックホルムから地下鉄で20分のところにある環境共生住宅団地。元々この周辺の集合住宅（1940年代に建設された）に住んでいた人達で構想が持ち上がった。90年にテスト的に環境共生住宅を計画し、95年まで準備期間をもち、その後建設が始まった。

小さなアパートに住んでいた人達が一回り大きな家を望んだが、住み慣れている地を離れたくないという気持ちもあった。土地探しからはじめ、エコロジーも将来的に考え、自然のものを使ってリサイクルできるものを構想した。建材も人間に優しいもの、自然にマッチしたものとした。サステナブル（持続可能な）を望んで、デンマークやオランダから学んだが、それらは皆、町から遠くにつくられていた。



ここは地下鉄で20分で都心までいけ、ショッピングもでき、車をもつ必要のない生活が可能だ。引っ越し専用の道はあるが、集合駐車場をつくり、団地内には必要な時以外は車が入れないようにした。皆よく歩くようになった。また、共同で車を使いあうシステムもつくっている。

団地内の汚水は浄化されて最終的にこの池に入る。池はピオトープになっている

団地の入口に共同の施設を固めた。

駐車場、ゴミ置き場、焼却場、尿タンクなど。スポーツセンターもあり、サッカーやスケートもできる。ジョギングコースもつくってある。散歩するグリーンベルトもあって、エコビレッジを外側からみるように外周につくられている。昔あった木をそのまま残している。

44世帯（37戸が二階建て）、180人が住み、10～12戸でグループをつくり管理している。この内、大人は85人。この団地の開発はH S B住宅管理会社が市から土地を借りて建物を分譲しているが、組合を組織して管理している。民間会社が市から委託されて分譲や都市開発をしている。

都心から地下鉄で20分とは思えない自然の雰囲気にあふれる団地で、まるで別荘の中に住んでいるような気持ちになる。エコ団地としての強烈的な印象もなく、極めて自然な感じの生活の中でエコが行われていることに感心させられた。やはり80年代のエコ団地は意識が強すぎて、全体の絵までデザインとして総括できなかったのであろう。



ストックホルムから20分なのに、まるで別荘地のような雰囲気

建物の断熱はセルローズファイバー、サッシはペアガラス。
共同のクリーニング場がある。
リサイクル倉庫があって、リサイクルできるものはそこで分別して捨てる。
また、中古製品を置いておき、誰でももって行っていいというシステムもつくられていた。
便所は大小分離していて、大は浄水場（自家）の方に流れ、小は近所の農家が肥料としてもっていく。
生ゴミはコンポストがグループ単位にあって、そこに捨てるが、ただ捨てるだけで、菌などは使わないようである。

価格は100㎡：75万クローネ。管理費は7000クローネ／月（水道、電気、ヒーター、下水料金などを含む）。工場労働者の平均的な月収は50万クローネ／月である。



雨水貯溜タンク



丸太の電信柱



穴の二つある便器。汚水は二管式で処理される。前方が小便で農家が肥料としてもっていく。後方は大便で団地内の浄化装置で浄化され、中水として使われる



汚水を浄化する装置